



南部小だより

No.4 令和8年7月17日



※タイトルのキャラクターは、『ONE PIECE 先生応援プロジェクト』に登録し、許可を得て使用しているものです。

1学期が終わりました。今学期も保護者の皆様を始め、地域の皆様にも大変お世話になりました。本校の児童のために、また、さまざまな教育活動でご支援を賜り、ありがとうございます。

1年生が入学し、2～6年生はそれぞれ進級してから3か月余り、子ども達は大きく成長することができました。新しい通学団では、上級生が1年生を気遣い、優しく声をかけたり歩調を合わせたりして登校しています。教室では笑顔で友達と接し、楽しい学級を作ろうとする意欲を感じます。大放課や昼放課になると、少しでもたくさん遊ぼうと、多くの子が運動場を走って遊具に向かいます。委員会活動も活発に行われ、朝のあいさつ、給食時の工夫された放送、毎日の図書の貸し出し等、責任感をもって活動できました。南部小の子ども達のよいところが、たくさん見られた1学期でした。

このような子ども達の姿を願って、担任は本当にがんばりました。校長から見ても、日々の担任の姿勢には頭が下がります。そして、保護者、地域の皆様にも、変わらぬご支援をいただきました。特に、学校内外の環境整備につきましては、地域の皆様のお力で、少しずつ美しさと機能を充実させています。ありがとうございました。

夏休みに家庭や地域の中でさらに様々な活動に取り組み、9月の始業式では、さらに大きく成長した子ども達に会えることを楽しみにしています。
(校長)

<飯ごう・カレー作り体験> 「協力して作る！防災教育として」

7月25日・26日に予定している5年生の野外教育活動では、近年の猛暑・危険な暑さを考慮し、熱中症リスクを回避するため、当日の野外での飯ごう炊飯を見送る判断をしています。しかし、「自分の手でお米を研ぎ、火を起こして飯ごうでご飯を炊く」という体験は、子ども達にとって仲間と協力する大切さや食への感謝、災害時にも役立つ生きる力を学ぶ貴重な機会です。

そこで、学校では、野外教育活動に先立ち、7月10日に飯ごう炊飯とカレー作り体験を行いました。当日は、家庭科室でのカレー作り班と外での飯ごう班に分かれて活動しました。外では、とても暑い日でしたが、うちわやかまどに風を送りながら火加減を調整して、真剣な表情で飯ごうを見守りました。自分たちで炊き上げたご飯のふたを開けると、ふっくらとおいしそうな湯気が立ち、あちこちから「おいしそう」「ご飯のうまそうな香りがする」と声があがりました。

校長先生からの「こんなにおいしいカレーは食べたことない」の言葉に、子ども達の顔は笑顔と達成感にあふれていました。自分たちの手で苦労して作ったカレーライスは、きっと子ども達の思い出に残ることと思います。

薪やお米の準備は、地域の方、JAに支えていただいています。本当にありがとうございました。



<児童代表のあいさつ>

2年 山本 知歩さん 「1学きにがんばったこと」

わたしが1学きにがんばったことは、テストの見なおしです。

わたしは1年生のときからうっかりミスがたくさんありました。どうしたらミスが少なくなるのだろうと考えていました。

2年生になって、ゆみ先生から、

「見なおしを3回してみよう」

と教えてもらいました。じっさいにテストのときに3回見なおしをやってみると、百点がとれるようになりました。うっかりミスをへらすためには、見なおしはだいじだなと思いました。

2学期も百点がとれるように、見なおしすることをつづけていきたいです。



4年 瀧塚 陸斗さん 「1学期にがんばったこと」

ぼくが1学期にがんばったことは、なかよし学級委員の仕事です。なかよし学級委員の仕事の中で一番むずかしかったことは、代表委員会で決まったことをペアの3年生に分かりやすく伝えることです。

3年生に伝えに行く前に、発表げんこうを作りました。みんなにわかりやすく伝わるように、何回も練習しました。初めて発表したときは、3年生の様子を見ると、分かっていない人がいるように感じました。そこで、「もっと相手の反応を見ながら話した方がいい」と気付きました。2回目の発表では、相手の顔を見たり、点や丸で少し間をあけて話したりすることを意識しました。すると、前よりも伝わっていると感じられて、うれしかったです。

この活動を通して、相手に何かを伝えるときは、自分が話すだけでなく、相手の表情や反応を見ることも大切だと学びました。また、なかよし学級委員になってクラス全体を見ることが増え、周りの様子にも気付けるようになりました。

2学期は、学級委員になってみんなが楽しく過ごせるクラスになるように、自分から行動していきたいです。

6年 新海 奏佑さん 「当たり前のこと」

僕が、1学期で成長したことは2つあります。それは、「当たり前のことを当たり前にする」ということです。

1つ目は、挨拶です。僕は去年までは挨拶をするときには恥ずかしくて声が小さくなっていたり、相手よりも遅くあいさつをしたりしていました。6年生になって、「当たり前の挨拶ができないままではいけない」と思い、もっと声を出そうとがんばりました。大きな声で相手よりも先にあいさつをしていくうちに、相手も元気に返してくれることに気が付きました。さらに、「学校が嫌だなあ」と思っていたものも少し無くなって、気分がよくなる時がありました。これからも大きな声で相手より早く挨拶を続けて、気分のよい朝にしていきたいです。

2つ目は、通学班の班長です。僕は今年、初めて通学班の班長になりました。1年生のスピードに合わせて歩いたり、1年生が班からはみ出ないように後ろを向いたりと気を付けて歩いています。班長として当たり前のことだけど、それがとても難しいことだと初めて知りました。そして、班の人を気にかけているうちに、少しずつ周りを見ながら行動できるようになりました。班の人が安全に学校へ行けるように、自分から声をかけることも意識できるようになりました。班長という立場を経験して、人のことを考えて行動する大切さや、責任をもって行動することの大切さを学びました。これからも、班の人が安全に通学できるように周りを見ていきたいです。

「当たり前のことを当たり前にする」ということは、簡単なようで難しいです。でも、それやると人として成長できます。これからも、人として当たり前のことを当たり前に行える人になっていきたいです。

南部小学校 学校日記

<https://agui.schoolweb.ne.jp/2310259/weblog>

南部小学校「学校日記」

日々の学校の様子をブログで紹介しています。授業や行事をがんばる子ども達の様子をご覧ください。

